



日建連表彰2021



第62回BCS賞

1. 日本橋室町エリア北の玄関口
2. 100尺ラインに浮遊するスカイテラス
3. 吹抜けと光膜で構成された明るいスカイロビー

日本橋室町三井タワー／
日本橋スマートエネルギープロジェクト 概要

- 所在地 東京都中央区日本橋室町3-2-1
- 建築主 日本橋室町三丁目地区市街地再開発組合、三井不動産TGスマートエナジー(株)
- 設計者 (株)日本設計、鹿島建設(株)、ペリクラーク ペリアーキテクトゥ ジャパン(株)、(株)ランドスケープ・プラス
- 施工者 鹿島建設(株)、清水建設(株)、佐藤工業(株)
- 竣工日 2019年3月31日

- 敷地面積 11,484㎡
- 建築面積 8,574㎡
- 延床面積 166,728㎡

- 階数 地上26階、地下3階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは
左記のQRコードから
Webページに
アクセスしてご覧ください。

シオンシステムを中心とするエネルギープラントを地下に設置し、日本の既成市街地における自立分散型電源によるエネルギーの地産地消を達成している。東京駅近郊の日本橋室町・本町地区の一部に対して、ICTを用いてエリア全体の電気・熱の供給を統括制御し、標準的な建物に比べてCO₂を約30%削減するとともに、広域停電時にはエリア内へ夏季ピーク時の50%までの電気・熱供給の継続を可能としている。さらに、エネルギープラントの防音・防振への配慮とともに、断水・浸水対策も講じられており、都市防災力の強化とBCP機能の向上に

貢献し、日本橋のレジリエントな街づくりを支える縁の下の力持ちといえる。これらの建設は都心部における大深度掘削という難易度の高いものであるとともに、約100万平方メートルにおよぶ広範なエリアへの電気と熱エネルギー供給ネットワークの拡張は、地下鉄ほか既存インフラに配慮した高精度の施工技術が要求されるものだったことは想像に難くない。

以上、類例のない「都心型スマートシティ」実現に向けた高次元の取り組みは高く評価されるものである。

選定理由【選考委員】
後藤春彦・安田俊也・徳久光彦

COREDO日本橋(二〇〇四年)に始まる「日本橋再生計画」の第二ステージ(二〇一四年)の旗艦プロジェクトに位置付けられるこの作品は、日本橋室町三井タワーという建築単体ではなく、日本橋スマートエネルギープロジェクトという電気や熱を供給するエネルギープラントおよびエネルギーマネジメントシステムも含まれている点が、従来のBCS賞の表彰作とは大きく異なる。すなわち、敷地を越えて都市スケールにまで建築の概念を拡大するとともに、その担うべき機能を公共的なインフラストラクチャの領域まで展開した点が特徴的である。

日本橋室町三井タワーは、区道の廃道や容積移転を伴う再開発事業として、地区のポテンシャルを高

める大街区化を目指し、強化ガラスの大屋根がかかる広場(一、五〇〇平方メートル)の新設や地下歩道の拡幅など、賑わいの創出、交通ネットワークの強化、防災性能の向上などへの貢献がみられる。また、都市景観面では、三井本館、日本橋三井タワーと同様に高さ一〇〇尺(約三一メートル)のコーニス・ラインを踏襲し、わが国の経済・商業・文化の中心的役割を担い続けてきた日本橋の格式ある街並みを継承している。さらに、バイオフィリックデザインの思想を取り入れ、多様なABW(Activity Based Working)の場を提供し、CASBEウェルネスオフィスSランク認証(賃貸オフィス最高九二点)を取得するなど、国際業務拠点としての機能も十分に兼ね備えている。

日本橋スマートエネルギープロジェクトは、大型のコジェネレー

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2021年で62回を数えました。

《日建連表彰2021 第62回BCS賞受賞作品》 有明体操競技場／大宮区役所・大宮図書館／軽井沢風越学園／The Okura Tokyo／大倉集古館／渋谷ストリーム／昭和電工(大分県立) 武道スポーツセンター／大丸心齋橋店本館／高崎芸術劇場／知立の寺子屋／日本橋室町三井タワー／日本橋スマートエネルギープロジェクト／東大阪市文化創造館／福田美術館／松原市民松原図書館 「読書の森」／ミュージアムタワー京橋／ミライオン(長崎県立長崎図書館、大村市立図書館、大村市歴史資料館)